



# 営農NEWS



## 促成キュウリ栽培におけるべと病、褐斑病などの発生に注意し、防除を徹底しましょう

施設のキュウリ促成栽培では、これから生育が進み、茎葉の過繁茂や外気温の低下による施設内の密閉などの影響で、例年、各種の病害が発生しやすい環境になります。

病害虫発生予報 1 月号（県病害虫防除所）によりますと、12 月中旬現在、促成キュウリにおけるべと病の発生は平年よりやや多いとのこと。また、褐斑病の発生は品種間差が大きく、発病しやすい品種では、この時期に急激な進展のみられることがあります。

このため、これからは晴天乾燥の日をねらって予防散布に努めるとともに、病害の早期発見と発生初期の的確な防除を徹底することが重要になります。

### <防除のポイント>

- 1 施設内の過湿を防ぐため、気温や風向き等を常に注意して、日中は除湿機の稼働、暖房機の稼働や送風などに努め、適正な温湿度の管理を行ってください。
- 2 株間の通風をよくするための適正な整枝や剪定、樹勢を最適に維持するための適正な灌水や追肥など、常に適切な栽培管理に努めてください。
- 3 褐斑病の発生は、品種間差がみられます。罹病しやすい品種では、特に注意が必要です。
- 4 発病は、下葉や葉の込み合っている場所の裏葉などを丁寧に観察して、早期発見に努めてください。
- 5 病害発生を確認したら、早期に防除を行ってください。薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが重要で、夕方までには薬液が乾く時間帯に行ってください。
- 6 既に多発生した場合には、発病葉や茎などをできるだけ除去した後に薬剤散布を行い、病患部に薬液が十分散布されるようにしましょう。
- 7 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一系統薬剤の連続散布は避けてローテーション散布してください。

表 1 キュウリべと病の主な防除薬剤（平成 27 年 1 月 15 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害
ランマンフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	
カーゼート P Z 水和剤※	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
ジマンダイセン水和剤※	600~800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病、つる枯病、黒星病など
ペンコゼブ水和剤※	600~800 倍	収穫前日まで / 3 回以内	褐斑病、炭疽病、黒星病
フェスティバル M 水和剤※	750~1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	
プロポーズ顆粒水和剤	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	うどんこ病、褐斑病、黒星病
ダコニール 1000	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	うどんこ病、炭疽病、褐斑病など

注) 表 1、2 の※印がある薬剤は、有効成分マンゼブを含みます。キュウリにおける総使用回数に十分注意してください。

表 2 キュウリ褐斑病の主な防除薬剤（平成 27 年 1 月 15 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象病害
ジマンダイセン水和剤※	600 倍	収穫前日まで / 3 回以内	べと病、炭疽病、疫病など
ペンコゼブ水和剤※	600 倍	収穫前日まで / 3 回以内	べと病、炭疽病、黒星病
ゲッター水和剤	1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内	灰色かび病、炭疽病、菌核病
ベルコートフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	うどんこ病、灰色かび病、菌核病など
セイビアーフロアブル 20	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	灰色かび病、菌核病
フルピカフロアブル	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	うどんこ病、灰色かび病
ダコニール 1000	1,000 倍	収穫前日まで / 8 回以内	灰色かび病、黒星病、べと病など

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040